平成24年 冬 第30号

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

あかり

A K A R I

臨床研究と治験 ―― 1
「病院フェアー」を開催して ―― 2
良質な医師を育てる研修
「神経・筋(神経内科)基本診療スキルアップ研修」について ―― 2
アルツハイマー型認知症に対する新薬の登場 ―― 3
B2病棟 昼食バイキング ―― 3
「てんかん看護セミナー」を開催して／自己紹介 ―― 4
第65回 国立病院総合医学会に参加して ―― 5
第65回 国立病院総合医学会に参加して ―― 5
「ふじのくに新東名マラソン」に参加して ―― 6
「もっとお出かけ、いっぱいしたいね♪」 ―― 6
てんかん外来再診の診療体制／医療連携室 ―― 7
はじめて当院を受診される方へ ―― 8
当院へのアクセス／イベント情報／本 ―― 8

臨床研究と治験

あけましておめでとうございます。今年最初の「あかり」では臨床研究と治験についてご紹介します。国立病院機構の使命として診療・教育研修・臨床研究の三つの柱があり、当院ではてんかんや神経難病の病態解明や治療法開発のための臨床研究をおこなっています。

臨床研究の中では新薬の効果と副作用を調べる臨床試験(治験)が大きな位置を占めています。我が国では厚生労働省の作成した新GCP(good clinical practice)という基準に従って治験参加者の人権や安全を守りつつ科学的かつ厳正な評価がなされます。そのために治験審査委員会で治験内容の審査をするとともに、治験管理室の専任治験コーディネーター、看護師、薬剤師が担当医とともに対応させていただいています。

表1 当院で現在行われている治験対象疾患

神経難病	てんかん
・アルツハイマー型認知症 ・レビー小体型認知症 ・筋萎縮性側索硬化症 ・パーキンソン病	・小児のてんかん (部分および全般発作) ・成人のてんかん (部分および全般発作)

治験では効果判定や副作用確認のために守らないといけない決まりがいくつかあります。来院および検査スケジュールや併用薬剤の種類や変更などについて厳格な設定がありますが、従来の薬では得られない効果があらわれる場合があります。予定人数の治験が終了し安全性と有効性が確認され厚生労働省から承認・販売を認可されるまで数年以上を要する場合が多いので、承認前の早い段階で新薬を使用できることは参加され

た治験参加者にとって大きなメリットとなる可能性があります。また、治験は新しい薬を皆様が使えるようになるための大切かつ不可欠なプロセスであり、患者様の積極的なご参加とご協力をお願いしています。

当院で行われている治験のうち、表1の疾患について現在参加可能です。治験薬ごとに参加可能期間、参加条件、服薬および検査スケジュールが異なりますので、関心のある方は担当医にご相談ください。当院における臨床研究および治験についての詳しい説明はホームページ http://www.shizuokamind.org の研究機構タブをクリックしてご覧ください。

（臨床研究部長　今井 克美）

「病院フェアー」を開催して

管理課長　佐治　初義

今年は当院が合併して10周年を迎えました。昨年までは看護週間内に「看護の日」を開催していましたが、今回は10周年を記念し10月3日（月）「病院フェアー」を病院内すべての職員が協力し開催しました。

今回は、入院と外来患者様及び家族の方を対象に“患者様や家族の健康保持・増進に参画していこう”、“病院の医療・看護をしっていただこう”というテーマです。広報活動は院内にポスターを掲示しただけでしたが、人気の骨密度は順番待ちができる程でした。他に腰痛予防・測定・相談・展示・看護の紹介のコーナーなども多くの方々に参加して頂き、「AED体験や体脂肪測定は普段できないのでよかった」、手洗い体験では「手洗いを視覚的に評価できてよかった」とういうご意見をいただきました。なかでも、体験コーナーと試食コーナーは好評でした。外来フロアーは、ホスピタルクラウンを招いて患者様と病院スタッフのコミュニケーションを深めることができました。

今後も当院へのご理解とご関心を頂けるよう地域の皆さまとのコミュニケーションを図る機会として続けていきたいと思います。みなさんありがとうございました。

良質な医師を育てる研修「神経・筋（神経内科）基本診療スキルアップ研修」について

グループワークの一こま

平成23年11月25、26日当院で上記の研修が行われました。この研修は国立病院機構本部が主催し、診療技能の向上等に資することを目的としています。今回は、初期の研修医を主な対象として、診察技術、検査技能の習得、診断に至るまでの思考過程、在宅療養のための社会資源の利用方法などについて、グループワークを中心に行ないました。指導医は東海北陸地区の国立病院機構病院に所属している神経内科指導医8名です。

参加者は15名と少なかったのですが、かえって、指導医との距離が近くなり、密度の濃い研修ができました。そのためか、今後の進路についての相談や仕事上での悩みなど、なかなか普段は話せないことも話しができたようで、好評でした。

指導医からも、課題はあるものの、今後も継続していきたいとの感想がありました。

（副院長　溝口 功一）

アルツハイマー型認知症に対する新薬の登場

従来、アルツハイマー型認知症に対する薬は、1999年に発売されたドネペジル（商品名：アリセプト®）のみでした。発売当初は、軽度～中等度のアルツハイマー型認知症にのみ使用が認められていましたが、2007年より高度のアルツハイマー型認知症に対する適応も認められ、重症度に関係なく使用することができるようになりました。しかし効果が無かったり副作用により使用できなくなっても、他に選択肢が無く中止せざるを得ませんでした。

しかし2011年3月にガランタミン（商品名：レミニール®）、6月にはメマンチン（商品名：メマリー®）、7月にはリバスチグミン（商品名：リバスタッチ®、イクセロンパッチ®）が発売となり、薬剤の選択肢が広がりました。メマリー®は錠剤、レミニール®は通常の錠剤の他に口腔内崩壊錠（水が無くても唾液で溶ける錠剤）と液剤、リバスタッチ®とイクセロンパッチ®は貼付剤と多様な剤型が揃っています。

レミニール®とリバスタッチ®、イクセロンパッチ®は軽度～中等度のアルツハイマー型認知症に、メマリー®は中等度～高度のアルツハイマー型認知症に対して用いられます。レミニール®、リバスタッチ®、イクセロンパッチ®はアリセプト®と同じ作用機序で、神経伝達物質の一つであるアセチルコリンの分解酵素のコリンエステラーゼを阻害することで効果を発揮します。一方メマリー®は、神経伝達物質の一つであるグルタミン酸受容体の一つ（NMDA受容体）を阻害することで、効果を発揮します。このことからメマリー®は他のアルツハイマー型認知症の薬と併用する場合があります。主な副作用ですが、レミニール®は悪心・嘔吐・食欲不振・下痢などの消化器症状、メマリー®はめまい・便秘・体重減少・頭痛などの症状、リバスタッチ®とイクセロンパッチ®は消化器症状の他に貼付剤特有の接触性皮膚炎・掻痒感などがあります。これら新薬は、アリセプト®と同様に投与開始初期に発現する副作用回避のため、低用量から開始して効果が期待できる維持量まで徐々に増量していきます。

注意しておかなければいけない点として、従来のアリセプト®を含めて今回発売された全ての新薬は、アルツハイマー型認知症の症状の進行を抑制することを目的としており、病態の進行を抑制する薬剤ではないことを理解しておくことです。また、新薬全般に当てはまることですが、発売後1年間は1回の受診で最大14日分までしか処方することができません。ご不明な点などがありましたら、お気軽に薬剤師にご質問ください。

（製剤主任薬剤師　家田 直幸）

＊ B2病棟　昼食バイキング ＊

B２病棟の患者様の多くは、食べることがとても大好きです。（私自身もそうです！!）毎日、昼食の時間になると「今日のごはんのメニューは何？」と興味を持って聞いてくださいます。そんな皆様に、いつもとは違う形でお食事を楽しんで頂こうと思い、栄養課職員の協力のもと、昼食バイキングを企画しました。

メニュー決めでは、患者様と管理栄養士さんとで話し合う機会を設け、ご自分のリクエストメニューを直接伝えることができました。うどん、ラーメン、パン、アイス、コーヒー…食べたいものがたくさん挙がり、皆さんで悩んでしまいましたね。

バイキング当日は、いつものデイルームがレストランに大変身！！様々なお料理の中から食べたいものを選び、その場でお皿に取り分けてもらい、賑やかな雰囲気のなかでお食事を楽しみました。また、患者様からの「揚げたての天ぷらが食べたい。天ぷらを揚げるところを見たい。」という要望も実現し、デイルームには天ぷらの揚がるジュージューという音といい香りが立ちこめて食欲をそそりました。

目の前に並ぶお料理に声をあげて喜びを表現する患者様や、並んだお料理から何を選ぼうか悩んでいる患者様、待ちきれずつまみ食いしてしまいそうになる患者様、おかわりを何度もして満足した表情の患者様など、様々な患者様のあらわれを見ることができました。

おいしくて楽しいお食事、ごちそうさまでした!!

（保育士　加藤 幸）

「てんかん看護セミナー」を開催して

当院は、日本のてんかん医療のリーダーとして最新の情報や知識を提供する役割を担っています。そのため、看護部はてんかん看護の質の向上のため平成16年から「てんかん看護セミナー」を開催し今年で8回目となります。今年は、10月20日・21日の2日間32名の参加を得て実施しました。

目的は、「てんかん医療・看護に携わっている看護師、および関心を持っている看護師に対し、最新の知識、技術の充実を図る」で、全国の看護師を対象に毎年開催しています。

受講者は、国立病院機構のみでなく、公立病院、私立病院、施設など様々な設置主体から参加しています。また、「医師が常勤してないため看護師の判断に委ねられ、相談する人がいない」などの切実な悩みをもつ方もおられました。少しでも、てんかんのことが理解できれば患者様が楽になるのではという思いがひしひしと感じられ、てんかん医療を担う当院の役割の大きさを感じました。

研修内容は、てんかんの疾患・看護、リハビリテーション、検査、心理テスト、福祉制度、薬剤に関する講義を行いました。毎年行っている研修後のアンケートで希望がある項目については次年度のプログラムで検討しています。今年は脳波検査を追加しました。例年、事前レポートの学びたい項目を講師に伝え講義に加えてもらっています。今年は、特に講義後の質問が活発で皆さんの思いと意識の高さに驚かされました。2日目の午後は、てんかん病棟と重症心身障害病棟の見学を計画し、実際の病棟の状況を知っていただきました。その後、意見交換会を行い、そこで自分の持ってきた課題を解決して終了されたようです。

講義では活発な質問がでました

病棟見学の様子です

今年も1日目の終了後懇親会を行い、当院職員との交流を図っていただきました。多くの方に参加していただき施設の状況などの情報交換の場となりました。今回も、てんかん看護の院内認定看護師が講義や質問に対応しました。受講生には、認定看護師が作成したてんかんハンドブックをお渡ししました。ぜひ、活用していただければ思います。

このセミナーは、全国の看護師対象に行っていますのでホームページでも募集しています。多くの看護師に参加していただくことが、てんかんをもつ方の生活の質の向上につながると思います。

（副看護部長　松山 みどり）

自　己　紹　介

精神科医師　西田　拓司

出身地▮京都府城陽市　**趣　味**▮旅行、ドライブ、歩くこと
抱　負▮
５年半ぶりに静岡に戻ってきました。温暖な気候が心地よいです。てんかんの包括医療とは何かを考え、皆様のお役に立てるよう日々精進したく思います。どうぞよろしくお願いします。

庶務係長　中神　基充

出身地▮愛知県田原市　**趣　味**▮食べること
抱　負▮
庶務関係の仕事は初めてで、転勤早々、みなさまにご迷惑ばかりお掛けしています。一日も早く仕事に慣れ、皆さまのお役に立てるよう頑張って参ります。どうぞよろしくお願いします。

看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務　夜勤有り　　②非常勤職員（外来、B型通園、病棟）

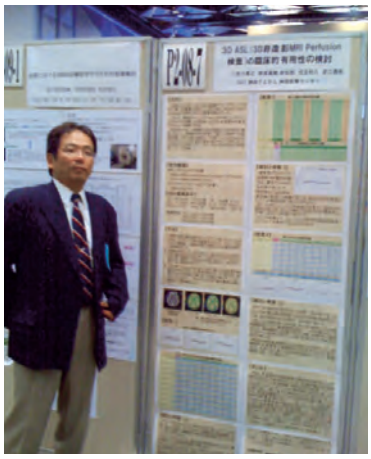
経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446　　E-mail ● kango-bu@szec.hosp.go.jp

第65回　国立病院総合医学会に参加して

2011年10月7～8日に岡山市にて開催されました「第65回　国立病院総合医学会」に参加し、日頃の研究成果を発表してきましたので報告させていただきます。

今回、私は「3D-ASL（3D非造影MRI　Perfusion検査）の臨床的有用性の検討」という演題で放射線MRI部門のポスターセッションにて発表しました。内容は、昨年12月にアップグレード（新機種に変更）されたMRI装置において造影剤を使用せずに脳血流量測定が可能なアプリケーション（3D－ASL）が導入され、この検査における撮影法や安定性などを検討し、その臨床的有用性をRI脳血流シンチによるARG法と比較検討し報告しました。その結果、ARG法による血流分布とは若干差異はあるが、当検査法では被曝が無く短時間で検査可能であり、脳血流量測定の検査法とし臨床的に十分に使用可能であるとの結論を得ました。この発表はセッション参加者の賛同を得ることができ、幸運にも「ベストポスター賞」を戴きました。


発表ポスターの前にて

全体交流会会場の
ライトアップされた岡山城

緊張の発表が終わると、ライトアップされた岡山城を眺めながらの「全体交流会」が開催され、私も他の参加者と一緒に参加してきました。この交流会では、瀬戸内の海の幸や岡山の郷土料理の数々を堪能しながら他施設の方々と交流して楽しい時間が過ごせました。これも学会の楽しみの一つです。次回の国立病院総合医学会は神戸で開催される予定となっていますが、今後も研究を継続し発表する機会があれば是非参加したいと思っています。

（主任診療放射線技師　吉川 貴之）

第65回　国立病院総合医学会に参加して

ベストポスター賞をいただきました。

平成23年10月7日、8日に第65回国立病院総合医学会が岡山にて開催されました。岡山といえば、今年のB－1グランプリでグランプリを獲得して話題となりました。学会に参加したおかげで私も1位、2位に輝いたひるぜん焼きそば、ホルモンうどんを堪能することができました。

さて、学会の話をしますと、今回、国立病院総合医学会に初めて参加し、その規模の大きさに驚きました。会場は4会場、口演518題、ポスター展示1469題ということで、会場の広さ、人の多さに戸惑いながらも、何とか無事にポスター発表をすることができました。内容は「就労場面でのてんかん患者の働きにくさを把握する問診票作成の試み」です。仕事の様子をインタビュー調査し、どのようなことで困っているか把握しやすい問診票を作成し発表しました。作業療法士として社会参加を支援する姿勢を評価していただき、見事（？）ベストポスター賞を頂きました。リハビリテーション科内にてリハーサルを行ない、諸先輩方からアドバイスをいただいたおかげです。発表はあっという間でしたが、ポスターを作成し発表することで、日ごろの臨床を振り返るよい機会となりました。また他施設の方と討議することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回得た経験と知識を、今後の臨床に活かしていきたいと思います。

（作業療法士　山﨑 陽平）

「ふじのくに新東名マラソン」に参加して

Ａ５病棟　看護師長　　尺土　佳子

11月20日に行われた「ふじのくに新東名マラソン」に参加しました。このマラソンは、新東名高速道路が平成24年初夏に御殿場～三ケ日間で部分開通するのを祝うイベントのひとつとして開催されました。気温は26.5℃!!　11月とは思えない暑さの中、10㎞完走を目指して走りました。スタート時は駿河湾を眺めながら、これから自動車が走る高速道路を走れることにワクワクしていましたが、後半は暑さにばててしまい、笑顔もなくなり、ゴールの後は目の前が黄色一色の世界になり立っていられませんでした。みんながいる集合場所にたどり着くまで必死に歩いて帰りました。私は一昨年の４月に名古屋から転勤してきましたが、走ることをきっかけに病院で話せる人がたくさんできて、本当にうれしかったことを思い出しました。一緒に走ったメンバーは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、放射線技師、事務職員など様々です。全く知らない人でも声をかけて応援してくれる人もたくさんおり、元気づけられました。マラソンのおかげで、職種の壁を越えて話がしやすく、日々ありがたさを感じながら仕事をしています。

「もっとお出かけ、いっぱいしたいね♪」

当院のＢ１病棟には様々な症状の患者様たちが入院しており、楽しめる活動もそれぞれで異なります。しかし、「散歩」で季節の風の匂いを感じ、リフレッシュすることが好きなことは共通しています。今年の行事の一つであるバスハイクでは、患者様の共通の楽しみである「散歩」をメインにして計画し、また、「外出可能な患者様を、全員バスハイクに参加させよう」と企画して、昨年まで年１回行っていたバスハイクを、年2回に増やす試みをしました。

行き先は「静岡県立美術館」を選び、緑豊かな散歩道を散策することを計画しました。しかし、バスハイク当日は、なんと2回とも雨！散歩ができないことにスタッフや御家族からは残念がる声が聞かれましたが、患者様たちからは、バスの乗車で笑顔がみられたり、御家族の声掛けに大きな声で返事をしたりと、楽しげな様子が伝わってきました。美術館に到着し、バスを降りると、館内はシーン…と静か。当たり前のことですが、患者様たちは普段と違う雰囲気に面食らったのか、大きな声を出していた患者様も静かに待っていてくれました。

３つのグループに分かれて散策を開始！絵や彫刻の鑑賞に、患者様たちがどんな反応をするのかな…と見守っていると、患者様たちはご家族やスタッフの声掛けに耳を傾けており、時折良い表情をみることができました。また、外の雨を凌げる場所に出て、雨の音に耳を澄ませ、金木犀の香りを嗅ぐことができた患者様は、穏やかな表情で過ごすことができていました。あいにくの天気でしたが、予定していた全員が外出することができ、それぞれで、いつもと違う雰囲気を感じながら過ごすことができました。

今回のバスハイクでは、久しぶりの外出で、たくさん笑顔をみせてくれた患者様もいらっしゃいました。患者様の外出の機会をもっと増やしたい・・・という思いが、スタッフの中でも大きくなっています。患者様に外出をもっともっと楽しんで頂けるよう、来年度以降も力を尽くしていきたいと思います。

（保育士　北林 由比）

てんかん外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00　午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室	中　村		臼　井桂	山　崎	臼　井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今　井		井　上		松　田
第4診察室		鳥　取	日　吉		日　吉
第5診察室	池　田仁	池　田浩	池　田浩	寺　田	寺　田
第6診察室	芳　村	山　崎		芳　村	馬　場好
第7診察室		小　出		最　上	高　山
第8診察室			高　橋		
第9診察室	重　松	大　谷			大　谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	杉浦	小尾	山崎		小尾
第11診察室	溝口	八木	溝口		馬場国※

※第1、3週のみ

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾
禁煙外来	随時	池田仁

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室（予約センター）を設置しています。ご利用ください。（平日）

TEL■054-246-4580(初診)
　　054-246-1065(再診)
FAX■054-246-4607
予約センターの受付時間
●9:00～12:30　●13:30～17:00
E-mali■renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。
上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■
溝口　功一　寺田　清人　藤井 千穂子
舛田　俊一　家田　直幸　仲野 久美子
児玉　和久　中神　基充　堀田　真子
山本　　恵　長田　英喜

発　行■平成24年1月31日
国立病院機構
静岡てんかん・神経医療センター
〒420-8688　静岡市葵区漆山886

TEL■054-245-5446
FAX■054-247-9781
URL■http://www.shizuokamind.org
E-mali■shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室（054−246−4580）へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

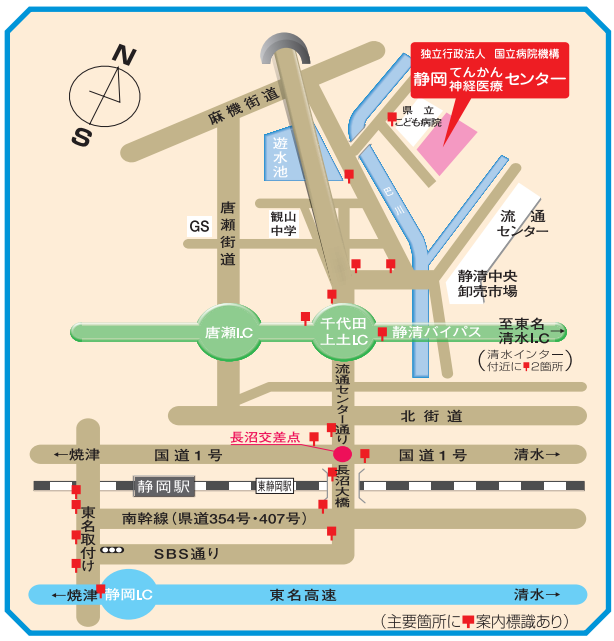
現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用（2,625円）がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス　access

バスをご利用の場合		ＪＲ静岡駅前、北口バスターミナル５番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の“静岡神経医療センター”で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人350円、小児180円。
タクシーをご利用の場合		ＪＲ静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,200円程度。
お車の場合	東京方面から	東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。
	名古屋方面から	東名高速静岡インターより、国道１号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。



イベント情報　INFORMATION

●第29回 てんかん専門職セミナー

2012年2月17日（金）　9:00～16:00

於◆当院管理棟３階講堂

本　BOOK

●アトラス　てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む【診断と治療社、2007年】

てんかん症候群におけるあらゆる病態の脳波記録を網羅的に掲載し、それぞれについて詳細でわかりやすい脳波判読のしかたを解説しています。

●てんかん症候群：乳幼時・小児・青年期のてんかん学【中山書店、2007年】

世界で愛読されているてんかんの教科書です。典型的な発作DVDが付属しています。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟１階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

❶てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
❷ホームページによる情報提供
❸てんかん協会との連携　❹医療などの相談(予定)